



自己決定を促す3つの言葉かけ

坂本中学校長 平岡 淳

坂本中学校のめざす学校の姿は「生徒の願いを大切に『夢』を育む学校」です。このめざす学校の姿を実現させていくキーワードとして、自分は自分で大丈夫という「自己肯定感」という言葉があります。この感覚を生徒一人ひとりが感じられることが自己実現(夢)に向けてとても重要であると考えています。「自己肯定感」を高めていく一つの要素として、自分で決定できる感覚、いわゆる「自己決定感」があります。この自己決定感を身に付けていく場面として、自分の思い通りにならなかつたり、仲間とトラブルになったりする状況が考えられます。そういった場合に、私たち大人は子どもに寄り添い、一緒になって考えていきますが、子どものことを思うがあまり、過剰な支援をしてしまうこともあります。私たちが願うのは子どもの「自立」ですので、先走った支援はかえって子どもの成長を阻害することになることも考えられます。本校では、生徒が困っていたり、悩んだり、自分の思い通りにならなかつた場面に遭遇した場合は、子どもが成長するチャンスととらえ、次のステップを踏んだ3つの言葉かけを大切にしていきます。

- 第1の言葉かけ 「どうしたの?(何か困ったことはあるの?)」
 - 第2の言葉かけ 「あなたはどうしたいの?(これからどうしようと考えているの?)」
 - 第3の言葉かけ 「何を支援してほしいの?(私に何か支援できることはある?)」
- <工藤雄一氏(元千代田区立麴町中学校長)の著書より>

まず、「どうしたの?」で子どものもっている課題や置かれている状況を言語化させます。次に、「どうしたいの?」で子どもの意思を確認します。そして、「何を支援してほしいの?」で問題解決の手助けを一緒に考えます。状況によっては、「Aという方法とBという方法があるけど、あなたはどっちがいいかなあ」と選択肢を与えていく方法もあります。

いずれにしても、問題解決の方法を大人が一方向的に決めてしまうのではなく、自分自身で解決する手段や、仲間や大人に助けをもらって困難から抜け出す方法を自分自身で導き出していくことが重要です。

坂本中学校では、子どもたちとの対話を軸とした指導をしていきます。対話の中で個の状況を把握し、一人ひとりの成長を促す支援を心がけていきます。ご家庭でも、この3つの言葉かけをぜひ実践していただき、子どもがトラブルや悩みを自己決定の中で解決できるよう手助けをしていただくとありがたいです。